

⑤2024年問題への取組みについて

	日ノ丸西濃	埼玉西濃	西濃エクスプレス	S&Nロジスティクス	朝日梱包
新たに取組みした内容 (テーマ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダイヤグラム化により全店の路線乗務社員の出勤時間を設定しチェックを行っている 運行便の見直し。(運行店所の移管) 立ち寄り店所の変更</li> <li>5月から6月にかけて路線リーダーの研修を行いリーダーの役割と2024年問題についての落とし込みを行った</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>採用に関しては、セイノーグループ様の成功事例を取入れながら取組んでおりますが、当社においては結果が出るに至っておりません(STC様、S SX様と競合地域の為)。その中で土曜日の出勤人数の削減と平日の労働時間時間の削減は、現状人員ではほぼ削減が見込めないため、土曜日を最低限の出勤体制とすることで労働時間削減を目指していく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗務員の拘束時間、運転時間、連続運転時間について、法規制より一段高いレベルの社内規定を設定し、コンプライアンス順守の取組み。 デジタルをリニューアルし拘束時間、運行内容、業務実態を一元管理化</li> <li>《管理項目》</li> <li>①拘束時間15時間以内、14時間越週2回以内</li> <li>②2日平均運転時間9時間以内</li> <li>③連続運転時間4時間以内</li> <li>・非乗務職においても、時間外労働45時間以内を目標に、業務配置の見直し</li> <li>・乗務職・非乗務職とも月次のコンプライアンス会議(本社、店所管理職全員参加)で、前月の取り組みと結果を検証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・案件単位ではなく、拠点全体での出荷準備の優先度付け</li> <li>業務の<b>コアタイムに於ける、スキマバイトサービスの活用</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発送商品の作業完了時間の短縮と出荷後の仕分作業の軽減</li> <li>当日出荷分は14時までに作業を完了する</li> <li>昨年までは15時までの作業完了を1時間前倒し</li> </ul>
効果・実績について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーバーしそうな便に関しては、立ち寄り店所の変更を模索しながら全便拘束時間16時間以内での作業終了を検証</li> <li>・ターゲット便を8便設定</li> <li>・神明～名糖便の所属店変更</li> <li>・加西～富士便の運行形態変更</li> <li>・九州便2便の始業時刻変更</li> <li>・その他4便立ち寄り変更により15時間以内に改善完了</li> <li>・働き方改革により、集荷時間が全般的に早くなり路線出勤時間も早くなっており自己判断により早く出社していたが、ダイヤグラム化により改善でき、多くの便で時間の短縮完了</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型物流倉庫は土曜日稼働しており、通常通りの配達があるため、出勤人数の削減には至っていない。だが午後からは半休の取得ができ始めているので、今後より半休取得者を増やし労働時間の削減に努める</li> <li>・採用活動は、複数の求人媒体を使用し露出を高め、応募につなげる</li> <li>・在職者の流出防止策としては、福利厚生の一環として季節に応じた支給品などを都度検討している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運行コースの見直しや、当社の拠点を活用した中継輸送、MEXP便の活用により、特定の改善が必要な運行コースは無くなった</li> <li>・デジタルをリニューアルしたことにより、業務実態や運行状況の把握が簡素化され、管理効率が上がりました。SICで乗務員に指導できるようになったことで、改善スピードは向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出荷に於ける待ち時間削減の為、案件単位ではなく、拠点全体での作業優先度を把握し、現場作業員への指示を行う</li> <li>進捗管理をしていく上で、遅れることが無いよう、作業員の配置を組み替えていく</li> <li>・特に出荷準備の<b>コアタイムに当たる時間帯に、スキマバイトサービスを活用し、キックワーカーを採用することで、出荷準備完了時間を早める。</b></li> <li>1日作業員を採用するよりも、当社にかかるコストは低減される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先期までは大口案件のみSTC東京支店の路線バスに合わせて1階Aライン・1階Bライン・3階と分けて出荷をしていたが今期からは全ての案件にて上記3パターンへの仕分を行ってから引き渡しをする事で、出荷側で出来る事を行っていく</li> </ul>